

れず結晶粒は著しく細かく析出速度及其の硬度は最大であつた。尙、700°C、800°Cの時効には、200hr迄の試験では未だ不充分の点があるが、これは次の機会に補い度い。

(4) 時効過程に於ける格子常数の変化については前段階で一度増加し、然る後に減少することが判つたが、この前段階での増加の理由については説明出来なかつた。而して、格子常数が増加によつて一旦最大値に達して、次に減少を開始する時間は析出硬化過程に於ける二段硬化現象の初の硬度の山、次の谷の現われる時間とほ

ぼ一致することが確認され、従つて含有N量、硬度の二段過程及び格子常数の変化の三者の間には何等かの関連があるに相違ないと結論された。

文 献

- 1) 浅野榮一郎: 鐵と鋼, Vol 38, No.5 (1952) 328
- 2) 浅野榮一郎: 鐵と鋼, Vol 39, No.5 (1953) 531
- 3) 今井勇之進: 鐵鋼協會春季大會講演會(昭和27年)
- 4) 小野健二: 鐵鋼協會春季大會 " "
- 5) 出口喜勇爾: 鐵と鋼, Vol 38, No.11 (1952) 37
- 6) 未發表

昭和 29 年 10 月號論文預告

— 論 文 —

1. 熔融炭素合金の脱炭反応に関する研究 (II) {勝 藤 昌 伸
丹 羽 貴 知 蔵
(脱炭速度に及ぼす酸素圧の影響)}
2. 鑄鋼の高温割れ傾向に及ぼす諸元素の影響 (I) 沖 進
(C, Si, Mn, P 及び S の影響)
3. TiO₂ を含有する鋳滓による微細化黒鉛鑄鉄に関する研究 (IV) {沢 村 宏
津 田 昌 利
(S-H 鑄鉄の製造に関する二三の溶解条件)}
4. オーステナイトの混粒の新らしい表示方式について 堀 川 映 二
5. 耐衝撃工具鋼の研究 (I) {山 中 直 道
日 下 邦 男
(Si の影響について)}
6. 焼入油の老化について (II) {多 賀 谷 正 義
田 村 今 男
(礦油の老化)}
7. ガスタービン用耐熱鋼の研究 (V) {小 柴 定 雄
九 重 常 雄
8. 白心可鍛鑄鉄の脱炭特異層の生成に関する研究 (I) {茨 木 正 雄
島 野 宏

— 技術資料 —

鉄鋼のガス滲炭 錦 織 清 治

— 視察報告 —

日本の重工業、特に製鉄業に就て 印度金属学会長 フィローズ・クター